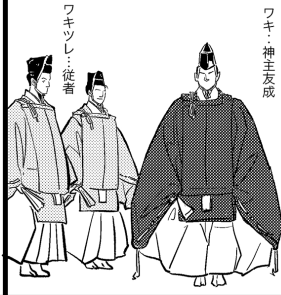


「高砂」

春。阿蘇宮の神主友成(ワキ)が、従者ワキツレを伴って上洛の途中、高砂の浦に立ち寄ります。



ワキ：神主友成



ワキツレ：従者

人が来たら松の木の謂れを聞こうと思っっているところに、一組の老夫婦が現れました。

ツレ：姫



傭(ツレ)は杉箒を、翁(前シテ)は熊手を肩に担いでいます。

前シテ：翁

能面：姥



能面：小尉

高砂の松とはどの木のことでですか

こちらです



友成は、この高砂の松が遠方の住吉の松と「相生の松」と呼ばれることを不思議に思い、またこの翁がその住吉に住んでいることに驚きます。

淡路島

夫婦なのに離れて住んでいるのですか？



お互いの思いがあれば、遠い距離ではないですよ

友成が「相生の松」の謂れを老夫婦に尋ねると、老人はそれがどれほどめでたいものかを語り始めます。

高砂は万葉集の昔のこと、住吉は現在の醍醐天皇のこと、松は永久に尽きぬ和歌の道を指し、今昔の繁栄を寿いだ例えのことなのです。

老夫婦はそれから更に松の有難い謂れを語り、それが高砂と住吉の松の精であることを明かして、「住吉で待つ」と言い残し海へと舟で去っていきました。

高砂の浦の者アイ

を呼び、今の出来事を語ると、彼は松の謂れを語り、住吉参詣を勧め、新しい舟を用意します。

アイ：所の者

友成一行が舟で住吉に着くと、住吉明神(後シテ)が現れます。



後シテ：住吉明神



面：邯鄲男

住吉明神は神舞を舞い、友成はそのありがたさを喜びます。明神は更にさまざま舞楽の名を連ねながら舞い続け、めでたき世を寿ぎます。

